

1961年花シリーズ

この年1961年は郵便創業90年にあたり、その記念事業の一環として、各地に咲く特産の花を描く切手が毎月1種ずつ発行された。グラビア多色刷りを駆使して発行されたこのシリーズは好評で、その後のシリーズ切手の先駆けとなった。

グラビア印刷技術の発展期に発行されたため、製造面の変化も興味深い。書状額面1種ずつの発行であるが、基本単位額面の切手としてさまざまな郵便にも便利に利用することができた。

本作品では前半で目打型式のバラエティを示したのち、後半ではさまざまな郵便物に利用された使用例を国内便、国際便に大別して紹介する。

目次

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 一覧 | 9. 目打型式の変種 | 17. 使用例・主要郵便料金 |
| 2. 目打型式：概要 | 13. 使用済切手 | 18. 使用例：国内便 |
| 3. 目打型式の変遷 | | 24. 使用例：国際郵便 |

すいせん

1961. 1. 30



うめ

1961. 2. 28



つばき

1961. 3. 20



やまざくら

1961. 4. 28



ぼたん

1961. 5. 25



はなしょうぶ

1961. 6. 15



やまゆり

1961. 7. 15



あさがお

1961. 8. 1



ききょう

1961. 9. 1



りんどう

1961. 10. 2



きく

1961. 11. 1



さざんか

1961. 12. 1



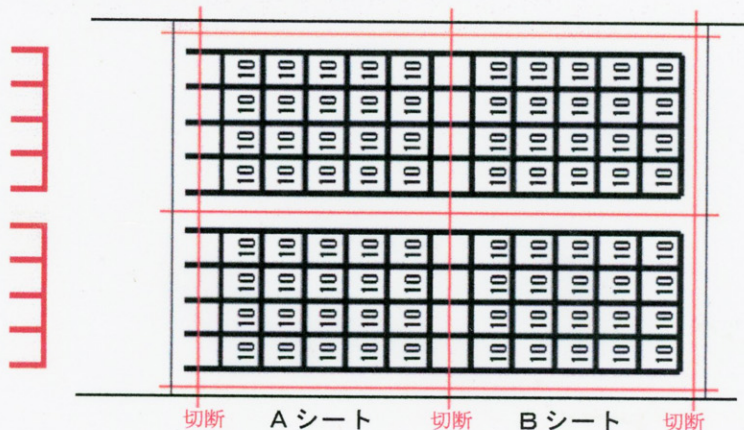
目打型式の変遷

1955年に導入されたグラビア多色印刷機には、印刷工程と連動した目打穿孔装置を接続できたが、機器の調整に手間取ったため当初は印刷・裁断後に、別工程で目打穿孔がなされた。本シリーズの途中からようやく本来の連続工程穿孔ができるようになったが、その後ふたたび別工程穿孔に戻された。その経緯が窓口シートの耳紙への目打貫通様式に残されている。

2シート続き櫛型（別工程穿孔）

4シート構成の大判シートの形に切断してから穿孔

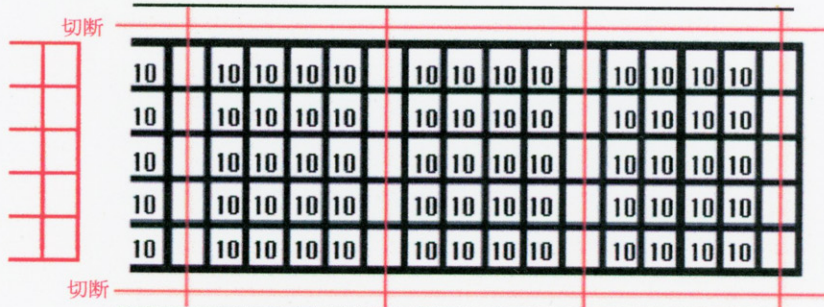
上下耳紙に目打穴が貫通したシートと、片側のみに貫通したシートの2種類のシートができあがる。3月「つばき」では上下逆向きに穿孔。



連続櫛型（連続工程穿孔）

ロール紙に印刷された切手を、連続工程で目打穿孔してから切断

上下の耳紙に余分な目打穴が2個ずつ穿孔される特徴をもつが、穴の数が1列おきに3個や1個となったバリエティ（変則目打）が、一部の切手に存在する。



窓口シートの分類

		2シート続き櫛型			連続櫛型		
		上下抜け	上抜け	下抜け	2つ穴	2-3穴	2-1穴
1月	すいせん	○	○				
2月	うめ	○	○				
3月	つばき	○		○			
4月	やまざくら				○	○	
5月	ぼたん				○		○
6月	はなしょうぶ				○		
7月	やまゆり				○		
8月	あさがお				○		
9月	ききょう				○		
10月	りんどう				○	○	
11月	きく	○	○				
12月	さざんか	○	○				

4月の「やまざくら」から新型の連続櫛型が採用されたが、11・12月は旧式の2シート続きに戻った。

目打型式の変遷：2シート続き櫛型

当初は昭和30年代中期の記念切手で広く使われた方式で目打穿孔された。縦2シート続き4シートがけで穿孔してから裁断して仕上げたので、耳紙への目打貫通様式に2種のバラエティが生じた。

すいせん：2シート続き櫛型(上向き)



Aシート (上下抜け)



Bシート (上抜け)

うめ：2シート続き櫛型(上向き)



Aシート (上下抜け)



Bシート (上抜け)

目打型式の変遷：2シート続き櫛型

つばき：2シート続き櫛型(下向き)

第3集「つばき」では櫛型目打が逆向きにセットされ、Aシートが下抜け、Bシートが上下抜けとなった。



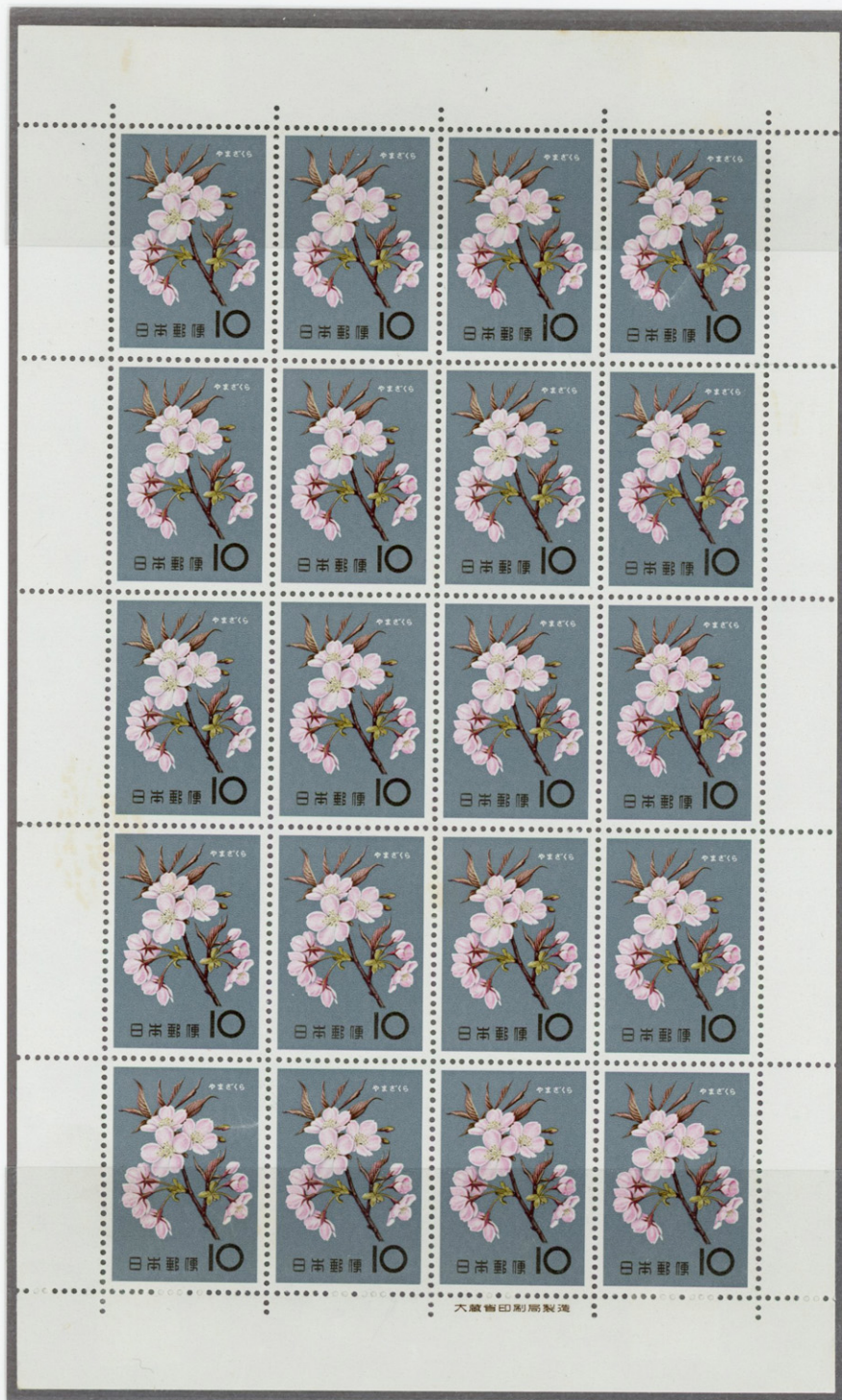
Aシート（下抜け）

Bシート（上下抜け）

目打型式の変遷：連続櫛型

やまざくら：連続櫛型2つ穴（左右抜け）

第4集「やまざくら」以降は、輪転グラビア機付属の穿孔装置を利用して連続的に穿孔する新方式に移行し、これに伴い紙目が横紙に変更された。目打は左右耳紙に貫通し、上下耳紙に2個飛び出している。



目打型式の変遷：連続櫛型

第4集「やまざくら」以降は、輪転グラビア機付属の穿孔装置を利用して連続的に穿孔する新方式に移行し、これに伴い紙目が横紙に変更された。日打は左右耳紙に貫通し、上下耳紙に2個飛び出している。

やまざくら～やまゆり：連続櫛型2つ穴（左右抜け）



やまざくら



ぼたん



はなしょうぶ



やまゆり

目打型式の変遷：連続楕型

あさがお～りんどう：連続楕型2つ穴（左右抜け）



あさがお



ききょう



りんどう

目打型式の変遷：2シート続き櫛型

最後の2集では、再び旧来の2シート続き櫛型目打が採用された。

きく：2シート続き櫛型(上向き)



Aシート (上下抜け)



Bシート (上抜け)

さざんか：2シート続き櫛型(上向き)



Aシート (上下抜け)



Bシート (上抜け)

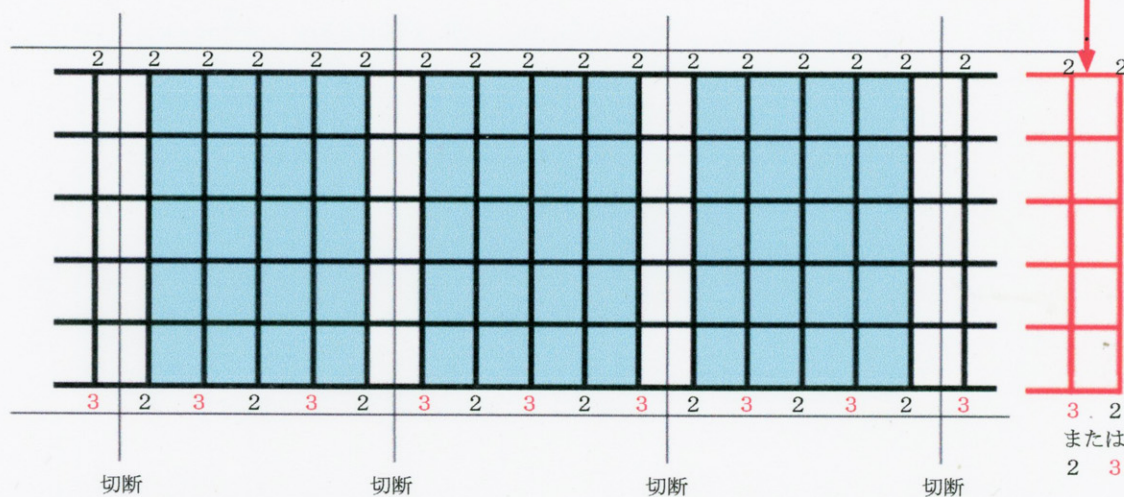
目打型式の変種

連続櫛型の変則目打(2-3目打)

連続櫛型目打の「両耳紙への飛び出し穴」の数は、本シリーズでは原則として2個であるが、一部の切手では基本目打ユニット内の1箇所だけに3個の目打針がセットされたため、下耳紙への飛び出し穴の数が**1列おきに3個**となっているシートが存在する。3個穴が1列おきとなっているのは、目打ユニットが2連式であることの証拠である。

シート切断位置の違いにより、穴数が左から3-2-3-2-3個となっているシートと、2-3-2-3-2個となっているシートとが存在する。

櫛型目打ユニット(2連)

やまざくら変則目打
(3-2-3-2-3)りんどう変則目打
(3-2-3-2-3)

目打型式の変種

連続櫛型の変則目打(2-3目打)

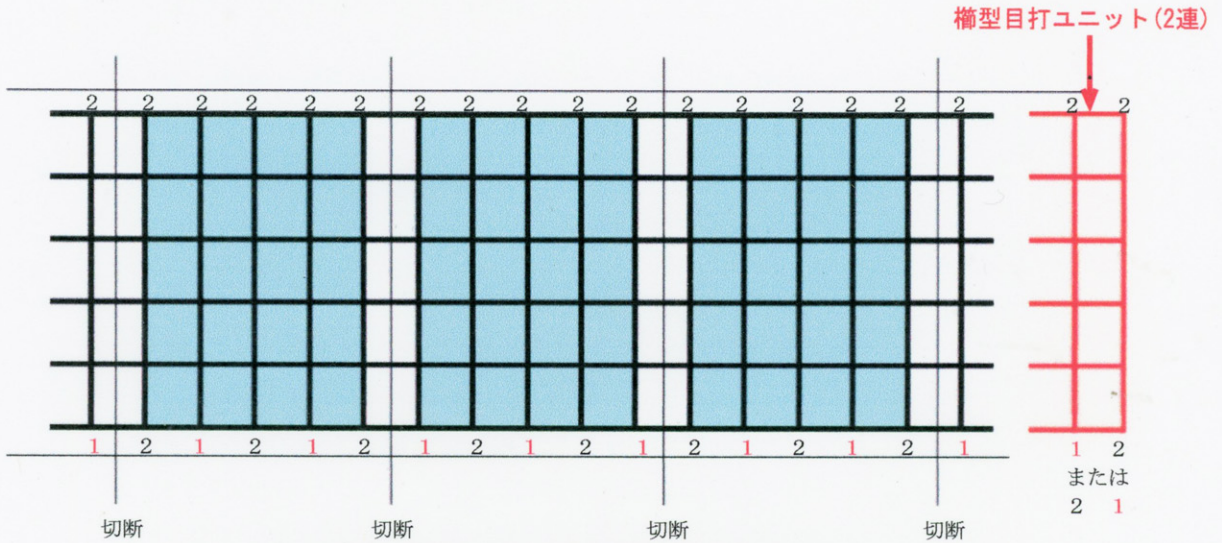


目打型式の変種

連続櫛型の変則目打(2-1目打)

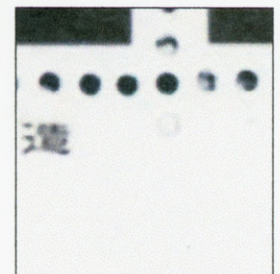
「やまざくら」、「りんどう」の2-3目打とは逆に、「ぼたん」の一部の切手には基本目打ユニット内の目打針が1箇所だけに1個であったために、下耳紙への飛び出し穴の数が1列おきに1個となっている変則目打のシートが存在する。

ただし、穿孔不良によるブラインドパーフのために変則目打であるかのように見えるシートも存在するので、注意が必要である。



ぼたん変則目打
(2-1-2-1-2)

一見「2-0目打」に見えるが、欠落箇所の1つめの穴はブラインドパーフである、2つめの穴は完全に欠落している。



目打型式の変種

変則目打もどきのシート

この時期の連続櫛型目打は仕上がりが不安定で、多くの穿孔不良が見られる。たまたま「飛び出し穴」の箇所がブラインドパーフとなったために、「2-1目打」であるかのように見えるシートが存在する。



ききょうの2-1目打もどき

使用済切手

すいせん



うめ



つばき



使用済切手

やまざくら



ぼたん



はなしょうぶ



使用済切手

やまゆり



あさがお



ききょう



使用済切手

りんどう



きく



さざんか



花シリーズの使用例

本シリーズ発行中の6月1日に国内あて、10月1日に海外あての郵便料金が改訂された。国内書状料金は据え置かれたため本シリーズは引き続き10円額面で発行されたが、それ以外の利用形態には料金改訂の前後でわずかな違いが生じた。

以下の料金表で網掛けを施した料金については、本作品中で実際にその料金(の全部または大半)に本シリーズの切手を充当した実通便を示している。

主な国内郵便料金

	基本料金			特殊扱い加算額	
	書状	葉書	第5種(印刷物等)	速達	書留
1951.11.1改訂	10	5	8	25	35
1961.6.1改訂			10	30	40

書状の速達や書留便は、料金改訂前では5円切手との混貼となるが、改訂後は本シリーズだけで料金を構成することができた。

主な国際郵便料金(船便基本料金)

	書状	葉書	印刷物
1959.4.1改訂	30	20	10
1961.10.1改訂	40	25	15

料金改訂前には、1枚貼りで印刷物便に利用することができた。沖縄あての船便料金は国内便と同額。

主な国際郵便料金(航空便基本料金)

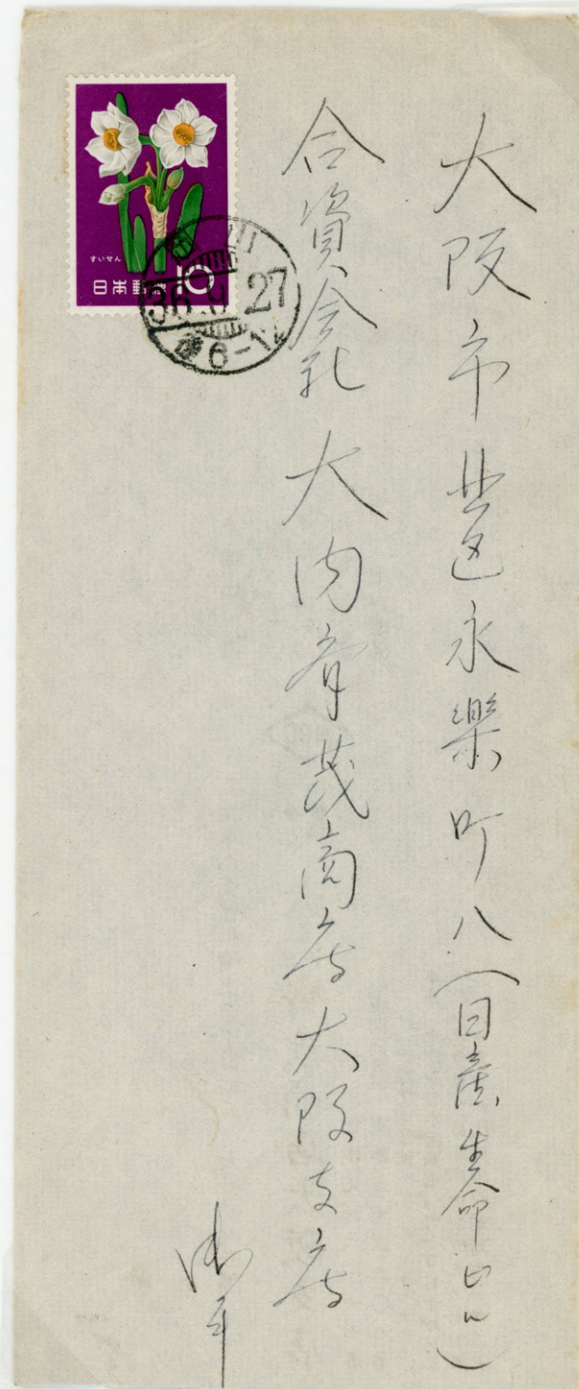
		書状	葉書	印刷物
1959.4.1改訂	特別地帯(沖縄)	25	25	20
	第1地帯	40	35	25
	第2地帯	75	40	30
	第3地帯	115	60	60
1961.10.1改訂	特別地帯(沖縄)	25	20	20
	第1地帯	50	30	30
	第2地帯	80	40	40
	第3地帯	100	50	50

料金改訂前は5円切手との混貼となる場合が多いが、改訂後はほとんどの場合本シリーズだけで料金を構成することができた。

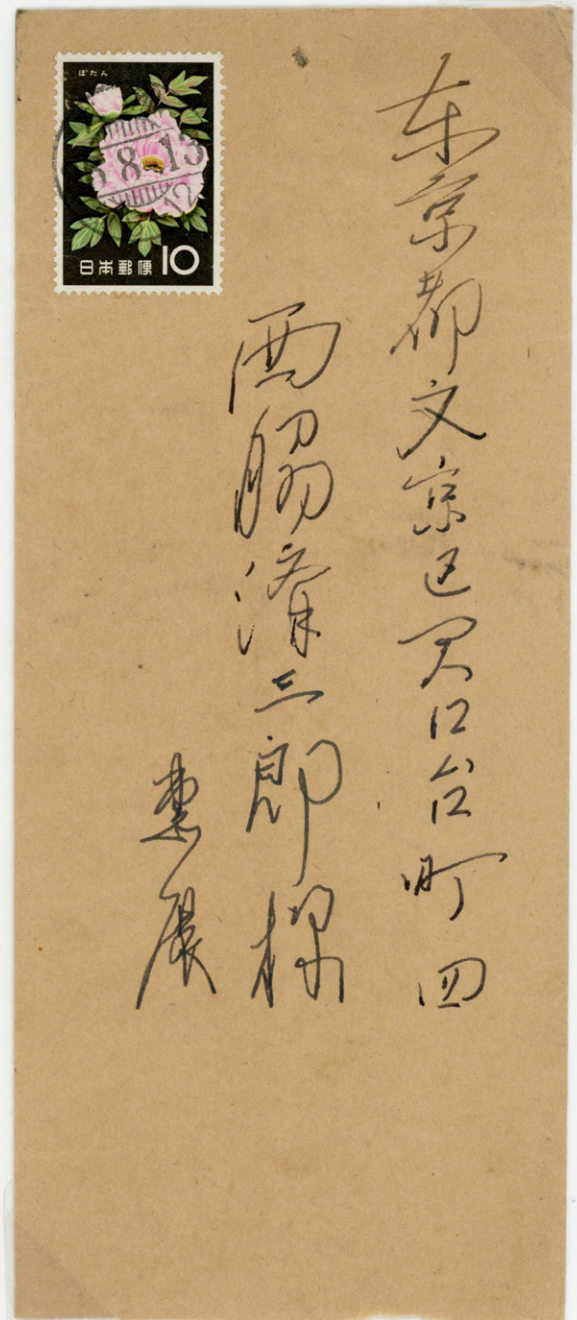
使用例：国内便

1枚貼り書状

最も基本的な使用例は、国内書状への1枚貼りである。シリーズ発行中の1961年6月に国内郵便料金が改訂されたが、書状料金は据え置かれたため引き続き10円額面で発行・使用された。



すいせん1枚貼り 岡山 S36(1961).9.27

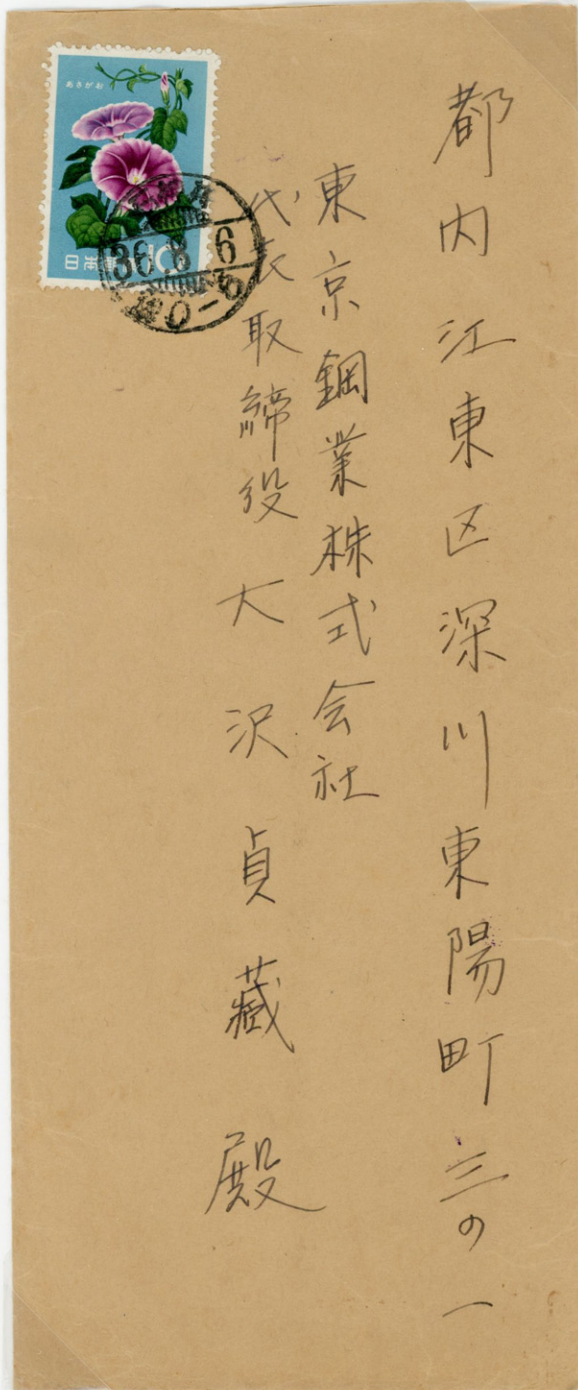


ぼたん1枚貼り 大洲 S36(1961).8.13

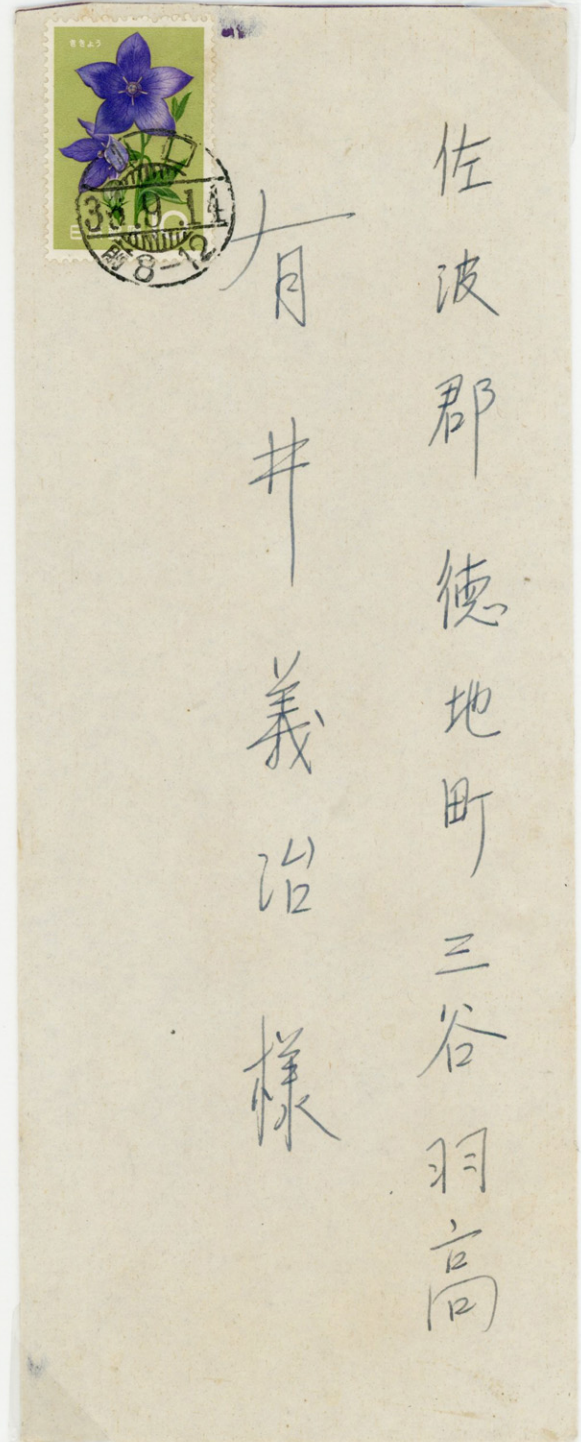
使用例：国内便

1枚貼り書状

最も基本的な使用例は、国内書状への1枚貼りである。シリーズ発行中の1961年6月に国内郵便料金が改訂されたが、書状料金は据え置かれたため引き続き10円額面で発行・使用された。



あさがお1枚貼り 石神井 S36(1961).8.6



ききょう1枚貼り 山口 S36(1961).9.14

使用例：国内便

特殊扱い便（速達）



速達書状 (35円＝書状10円＋速達料25円：1951.11料金)

東京中央 S36(1961).5.8 → 大阪中央

5円普通切手とやまざくら3枚で、合算料金35円を構成している。



速達葉書 (私製葉書に普通切手と混貼：1961.6料金)

新宿 S36(1961).10.24 → 中京(京都)

葉書料金分として5円普通切手を貼り、速達料金30円分としてあさがお3枚を加貼使用している。

1961年6月1日に特殊扱い料金等が改訂されたため。その前後で速達郵便等への利用形態が異なっている。

葉書・書状料金は据え置かれたため、料金改訂前は書状、改訂後は葉書の場合に5円切手との混貼となる。

使用例：国内便

特殊扱い便(速達)



速達葉書(官製葉書に速達料金分加貼：1961.6料金)

右京 S36(1961).11.8 → 岡山

速達料金30円分として、きく3枚を加貼使用している。



速達書状(40円＝書状10円＋速達料30円：1961.6料金)

日本橋 S36(1961).11.28 → 豊中

合算料金40円分に、単位額面切手としてきくを4枚貼りで利用している。

使用例：国内便

特殊扱い便(書留)



書留書状 (45円＝書状10円＋書留料35円：1951.11料金)

浅草蔵前 S36(1961).5.25 → 世田谷

1961.6.1の特殊料金改訂前に、合算料金45円の一部として、発行初日のぼたんを4枚貼っている。



書留書状 (50円＝書状10円＋書留料40円：1961.6料金)

東京中野桃園 S37(1962).1.16 → 池田

1961.6.1の特殊料金改訂後に、合算料金50円分として花シリーズの各種切手を5枚貼っている。

使用例：国内便

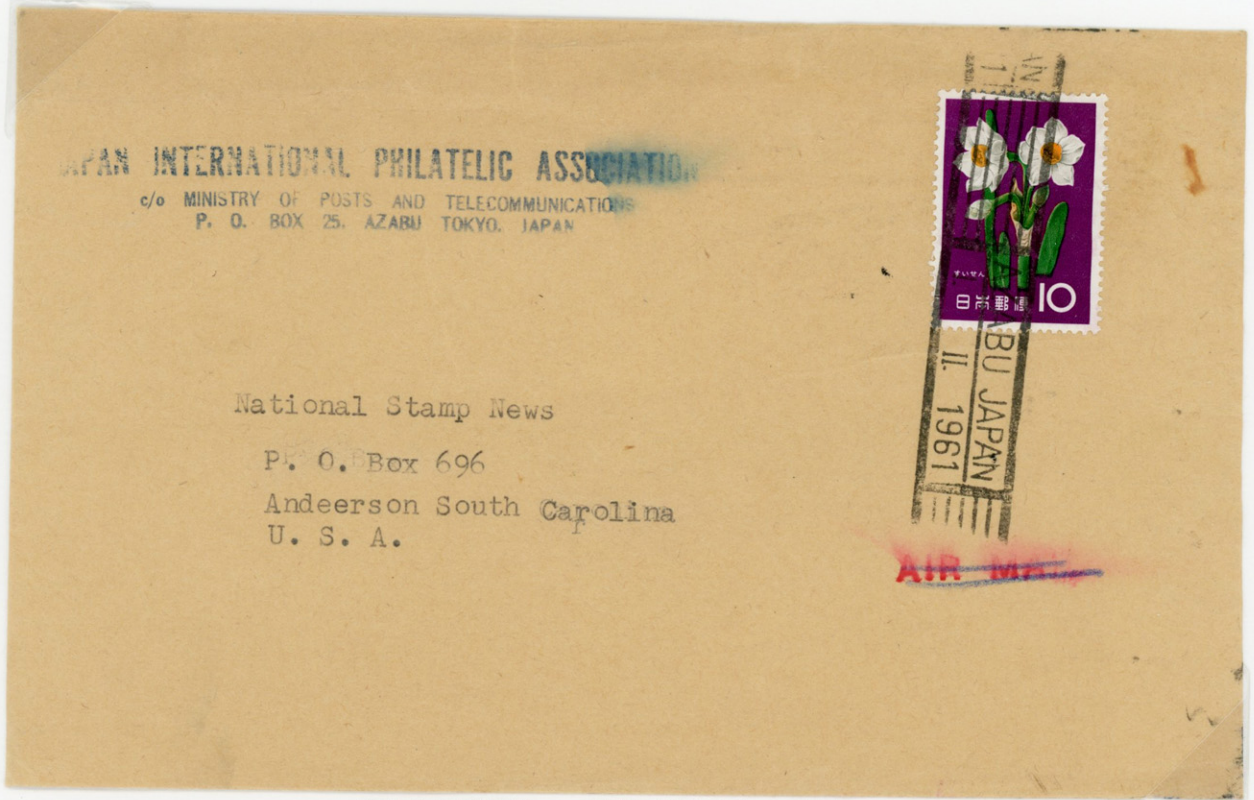
特殊扱い便(書留)



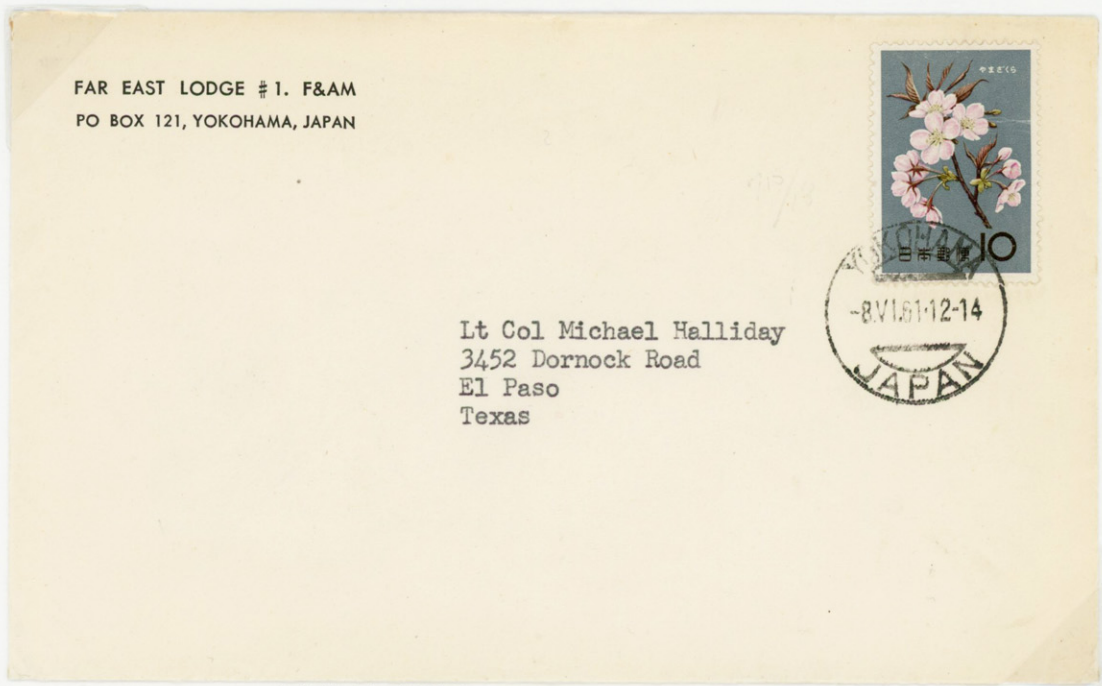
書留第5種便 (50円＝第5種10円＋書留料40円：1961.6料金) 東京中央 S36(1961). 12. 15
1961. 6. 1改訂の特殊料金・第5種料金の合算料金50円分として、さざんかを5枚使用している。

使用例：国際郵便（船便印刷物）

1961.9.30までは、外国あての船便印刷物にも1枚貼りで使用することができた(1959.4料金)。



すいせん1枚貼り AZABU 1961.2.1 → 米国



やまざくら1枚貼り YOKOHAMA 1961.6.8 → 米国

使用例：国際郵便（船便書状）

1961. 10. 1に料金改訂があったため、その前後で料金が異なっている。



外信船便書状（30円：1959.4料金） うめ3枚貼り DENENCHOFU 1961. 3. 1 → 米国



外信船便書状（40円：1961.10料金） きく4枚貼り TOKYO 1961. 12. 11 → 米国

使用例：国際郵便(船便書状)



2倍重量船便書状(50円：1959.4料金) すいせん5枚貼り TOKYO 1961.1.30(発行初日) → 米国

使用例：国際郵便（航空便）



第1地帯あて航空便書状（40円：1959.4料金） NISHINOMIYA 1961.8.60 → 韓国
船便料金30円として事前にあさがお3枚を貼った封筒を航空便とするために、差し出し時に
普通切手10円を貼り足したものと推定される。



第3地帯あて航空便書状（100円：1961.10料金） OSAKA 1962.4.30 → 英国
料金100円の航空便に、あさがおときょうを合わせて10枚貼っている。

使用例：国際郵便（航空便）



第1地帯あて航空便（40円：1959.4料金） UKYO 1961.8.29 → 韓国
40円料金の航空便書状に、やまゆりを4枚貼りで利用している。

使用例：国際郵便（航空便）



第2地帯あて航空便（75円：1959.4料金） TOKYO 1961.1.30（発行初日） → 米国

75円料金の航空便に、すいせんを単位額面切手として7枚貼り、5円普通切手を加えて利用している。

使用例：国際郵便(航空便)



第2地帯あて航空便印刷物 (40円：1961.10料金) TOKYO 1961.12.30 → 米国
 料金40円の航空扱い印刷物便に、さざんかを単位額面切手として4枚貼りで利用している。

使用例：国際郵便（沖縄あて）



印刷物船便（国内第5種便同額 10円：1961.6料金） KOBE PORT 1961.7.18 やまゆり1枚貼り

使用例：国際郵便(沖縄あて)



7倍重量航空便 (175円=特別地帯あて25円×7: 1959.4料金) KYOTO 1961.7.15 やまゆり17枚、他貼り